

第3回 瀬戸内市総合計画審議会 意見要旨

日時 令和3年2月15日（月）

午前10時00分～午後0時00分

場所 瀬戸内市役所 2階 大会議室

(1) 第3次瀬戸内市総合計画基本構想（案）について 資料2 資料3 資料4

【委員】

前回の会議で提案したことに対しては対応されており、特に意見はない。

【委員】

前回の各委員の発言に対して個々に対応されており、良い形になったと思う。「瀬戸内市は子どもたちが夢を育むことができるまちをつくります」を具現化するためには、地域や学校、行政が力を合わせていかなければならない。瀬戸内市は学力面では非常に頑張っているが、子どもたちのセルフエスティーム（自己肯定感）が課題だと感じている。子どもが夢を育むためには、学力だけでなく、セルフエスティームを育むことが大切であり、今後はセルフエスティームを育むという視点から、学校や家庭、地域、行政が子ども達への関わり方を見直すことも必要である。

(2) 第3次瀬戸内市総合計画基本計画（素案）について 資料5 資料6

【委員】

現在策定している瀬戸内市教育大綱との整合性は問題ないと思う。

■資料6：1ページ「みんなの思いやりがあふれる人権尊重のまち」

関係課に総務学務課が追加されており、学校で行われる人権教育との連携の充実を図ることができると思う。

■資料6：2ページ「子どもが楽しく学び成長を実感できるまち」

主体的・対話的学びの為には、図書館や博物館、美術館などの施設との連携も欠かせないので、関係課に博物館を管轄する文化観光課を加えてはどうか。

【委員】

■資料6：1ページ「みんなの思いやりがあふれる人権尊重のまち」

「障がい」という表現があるが、「発達障害」として特化して記載いただきたい。小・中・高校での発達障害は、児童虐待やいじめ、非行、引きこもりと密接な関係があると言われている。明確な指針が無いと、生徒も教師も保護者も手探りで個別に対応している状況がある。発達障害に関しては是非力を入れて取り組んでいただきたい。また、

スクールカウンセラーの増員をお願いしたい。現状と課題に「多様性を認め合う社会の広がりに伴い」とあるが、まだそういう社会になっていないと思うので、「多様性を認め合う社会」を目標に掲げてはどうか。今後の取組に「学校・園の教育活動全体を通じて」とあるが、この学校と園の間に「学童」を入れていただきたい。いじめは学校でも起きるが、学童内でも起こる。学校・学童・園が連携して取り組んでいくべきだと思う。

■資料6：2ページ「子どもが楽しく学び成長を実感できるまち」

関係課に社会教育課とこども政策課を加えていただきたい。また、基本方針の「学校・園と保護者・地域の人々」の学校・園の間に「学童」を加えていただきたい。子どもの非認知能力を向上させるため「シンギュラリティ時代に対応できる、非認知能力の向上を行う」という文言を追加できないか。「外遊び」という言葉も追加していただきたい。「先生の先生」の導入や、探求型授業の導入についても導入を検討いただきたい。学校給食の部分で「安心安全な地場産物」とあるが、瀬戸内市産の地産地消30%以上を目標に掲げて取り組んでいただきたい。また学校給食でも食育に取り組んでいただきたい。

■資料6：4ページ「子どもの成長をみんなで見守るまち」

基本目標に「子育てに関する情報提供」とあるが、市が主催・後援・協賛をしていない市民活動の情報発信にも力を入れていただきたい。また、他市の市民活動支援センターのような、あらゆる市民活動団体の告知チラシが自由に置ける場所や、情報交換や相談ができる体制づくりなど、市民活動の支援をお願いしたい。

■資料6：5ページ「互いに学びあい、教えあい、人がつながるまち」

基本方針に「市民、各種民間団体、学校・園、行政や企業など」とあるが、学校と園の間に「学童」を入れていただきたい。

■資料6：12ページ「安心して笑顔で子育てできるまち」

市内に産婦人科が無いと、出産という子育てのスタートの部分で安心できない状況にある。子育てに関する情報提供では、市民が行う子育て支援活動についても情報収集・発信ができる子育て情報サイトの導入を検討いただきたい。

■資料6：13ページ「働きながらでも安心して子育てできるまち」

課題に対する取組で「放課後児童クラブの資質を高めるとともに」とあるが、「各クラブ同士の意見交換の場を設ける」という文言を加えていただきたい。市が各クラブ間の交流の必要性を認識して場を設けていただきたい。

■資料6：19ページ「活力を生み調査の取れた土地利用」

太陽のまちプロジェクトは太陽光発電事業、安全・安心事業、環境保全事業の3つから成るが、ハビタットエリアの保全に向けて「希少種が生息する生態系保全区域への生態系の調査と保全を行う」と加えていただきたい。課題に対する取組の4番目が牛窓地区に限定されているが、空き家・空き店舗などを利用した産業、雇用、賑わい創出は他の地区でも行われているので、地区を限定しない表現に変えていただきたい。

■資料6：28ページ「環境に配慮した美しいまち」

「環境活動団体との連携、情報収集と発信」を追加していただきたい。市民活動支援センターが設置されれば、その役割を担うと考えるが、環境面においても情報の集約と発信を行っていただきたい。

■資料6：34 ページ「農林業にやりがいを見出すまち」

瀬戸市内には無農薬の農家が20軒近くある。市独自のエコロジー農水産物認定制度の導入を検討いただきたい。

■資料6：36 ページ「水産業に活力が生まれるまち」

邑久町漁協は海のエコラベルと言われるMSC認証を取っている。日本のカキでは初めてのことで、世界的にも大変注目される画期的なことである。農業部門と併せて環境配慮型農水産業のPRに取り組んでいただきたい。

■資料6：41 ページ「透明で開かれた市役所があるまち」

市民活動サポートセンターの設置と、市民が主催する活動の情報集約・発信を行っていただきたい。

【委員】

■資料6：2 ページ「子どもが楽しく学び成長を実感できるまち」

「令和2年4月現在で3園が休園となり、園児が減少しています」とあるが、「園児が減少して、現在3園が休園となっている」というのが正しい表現ではないか。

■資料6：4 ページ「子どもの成長をみんなで見守るまち」

課題に対する取組で「邑久高校とも連携・交流を進めます」とあるが、他高校や大学との連携もあるので、表現を工夫してはどうか。

■資料6：7 ページ「国際社会にはばたく人を育むまち」

現状と課題に「〇〇と予想されます」という表現があるが、既に国際化の中にあるため、「予想」という表現は変更したほうが良い。

■資料6：8 ページ「歴史や文化、芸術を大切にすまち」

歴史や文化、芸術を観光に生かす観点を加えてはどうか。

■資料6：17 ページ「障がい者がいきいきと暮らせるまち」

指標「福祉施設入所者の地域生活移行者数」は非常に少人数の目標となっている。他に適した指標を検討いただきたい。他の項目についても同様。

■資料6：18 ページ「生活困窮者が自立できるまち」

課題に対する取組の「生活保護の不正受給を一掃します」の中に「悪質な人に対しては告訴を含めて対応します」とあるが、「告訴」を法的措置など他の言葉に置き換えてはどうか。

■資料6：19 ページ「活力を生み調査のとれた土地利用を進めるまち」

課題に対する取組4は牛窓地域に限定されて記述されているが、他の著しく過疎化が進む地域や高齢化率が高い地域も含める文言に修正してはどうか。

■資料6：23 ページ「河川・海岸・港湾が整備された安心なまち」

現状と課題に「市西部においては、千町平野と呼ばれる平坦な田園が広がり」とあるが、「呼ばれている」という表現はもう要らないのではないか。

■資料6：24 ページ「自由に行き来できるまち」

指標の「交通不便地域に住む人の割合」が「0」となっているが目標として正しいのか確認いただきたい。

■資料6：25 ページ「便利な情報ネットワークがあるまち」

指標の「日常生活でインターネットを活用している市民の割合」について、スマートフォンが普及した現代に必要な指標なのか検討いただきたい。

■資料6：29 ページ「人と地球にやさしいまち」

今後の取組に「新エネルギーの導入を検討します」とあるが、瀬戸内市は日本最大級のメガソーラーが配備された地域であり、表現を工夫していただきたい。また、「省資源・省エネルギーに取り組みます」の中に「講演会やマイバック運動を実施し」とあるが、レジ袋の有料化が始まったので、もうマイバック運動は必要ないのではないか。どんな取組を行うかではなく、地球に優しい取組を行う考えを持った市民をいかに増やすかが重要である。瀬戸内市では以前に自転車によるまちづくりを調査・研究したことがある。市民の環境に対する意識を向上するため、自転車の活用などにも取り組んではどうか。

■資料6：40 ページ「にぎわいと活気のある観光のまち」

地域を歩くトレッキングルートを知っていただくことにより、地域への愛着が増し、それが観光につながるのではないかと思う。またサイクルルートの PR や、公共施設へのサイクルラックの設置などにも取り組んでいただきたい。

【委員】

乳児に関する記述が少ないと感じた。

■資料6：19 ページ「活力を生み調査のとれた土地利用を進めるまち」

J R 3 駅の駅前整備について、エレベーターを設置していただきたい。車いすの方や荷物を抱える高齢者には必要だと思う。

■資料6：28 ページ「環境に配慮した美しいまち」

コンポストを取り入れてはどうか。

■資料6：34 ページ「農林業にやりがいを見出すまち」

農林業の後継者確保についてアルバイトなど身近な人を活用してはどうか。

■資料6：41 ページ「透明で開かれた市役所があるまち」

市役所は行きにくいイメージがあるので、透明で開かれた市役所の取組は力を入れていただきたい。

【委員】

将来、この瀬戸内にどれだけの子どもが定住してくれるのかを危惧している。現在、瀬戸内市には1,000人程度の子どもがいるが、その何%が20年度の瀬戸内市に残り暮らししてくれるだろうか。新型コロナによりリモートワークが普及している。そういう現状も踏まえ、子ども達が瀬戸内市で暮らし、瀬戸内市を活気づかせてほしいと願っている。是非、計画に子ども達の意見も取り入れていただきたい。

【委員】

■資料6：15 ページ「いくつになっても安心して暮らせるまち」

現状と課題の文章は同じことが何度も出てくると感じるので、分かりやすく記述していただきたい。

■資料6：16 ページ「高齢者を地域ぐるみで支えあうまち」

今後の取組の4に権利擁護センターの記述があるが、令和3年度から中核機関を設置するため、そのような記述を追加してはどうか。

■資料：18 ページ「生活困窮者が自立できるまち」

「生活保護の不正受給を一掃します」という記述があるが、必要な方には生活保護を受給する必要があるため、「適正な給付を行う」という記述に変更してはどうか。また、「ひきこもり状態にある者の自立を支援します」とあるが、引きこもりの方の自立は非常に難しい現状がある。市民の方に理解をしていただく必要もあり、まず生活を支援していくということになる。「ひきこもり状態にある者の理解を広め、生活を支援します」という記述に変更してはどうか。

【委員】

■資料6：38 ページ「工業が進出しやすく経営が安定するまち」

項目名に「工業」とあるが、「工業」は分類の名前なので「企業」の方が望ましい。

【企画振興課】

ご意見を踏まえ、基本計画案を作成し、次回（第4回）審議会でお示しする。

以上